

足立輝吉 (私の履歴書 昭十会 昭和60年5月作成)

明治44年5月9日 栃木県足利市生れ

旧制足利中→第一高等学校→東京帝国大学工学部機械科卒業

(昭和10年卒業)

- 昭和10年4月 ㈱日立製作所 日立工場入社 配電盤部配製工係に配属
OCB(オイルサーキットブレーカー)の製作の現場の設計に、
同期入社の桑山氏等の開発になる制弧型の試作研究。
- 昭和15年1月 多賀工場新設に伴い、商品部電機小物課に転勤
小物製品の量産、流れ作業の技術の検討、改善。
当時既に扇風機等、民需縮小。軍用のミシンモーター、無線電源
用手回し発電機等製作。能率、歩留まり悪く難渋。
- 昭和18年1月 日立工場員。兵器本部の要請により、日立製作所として高射砲の
一貫製造することになる。project teamに選ばれ、
大阪造兵局に実習、日立工場にて88mm砲一門試作。
- 昭和19年 水戸工場造兵課長。勝田の精器工場内に試作工場建設。
20年 徴用工員学徒女子挺身隊を中心に生産開始。月産10門位。
7月艦砲射撃により壊滅的打撃をうく。8月15日終戦。
- 昭和20年11月 車両製作課長。水戸工場の戦災の残存機械を総動員し、車両工場
の復旧整備。混乱と虚脱のなかにあつて、復興再建に専念。
年末にEF-13を出荷。EF-58、EF-15等新製の電気
機関車を引き続き30余両製作。日立の再建に大きな寄与をす。
綿引、渡辺、今井、久米君等に、同じ車両製造部で協力を得る。
- 昭和25年5月 人員整理と争議、DODGEの来日と共に、超緊縮財政策が実施
され、情勢、急転、新造は皆無となり、無作業工場に転落。相模
への転出の後、更に30%に近い人員整理が行われた。全社最高
- 昭和26年12月 日立工場水車製作課長に転任。電源開発のため大型水車発電機の
受注、設備の拡充と増産。
- 昭和30年7月 海岸製造部長。神武景気、超繁忙続々、火力用ターボ発電機の製
作と、圧延機の製造も加わる。久保田、吉田徳、佐治、阿部君の
支援を受ける。
- 昭和31年12月 山手製造部長。車両用モーター、艦船用直流機、制御装置等、空
前の活況を呈す。
- 昭和35年3月 絶縁物工場に転出。化学の勉強、語学と同じで言葉が通じ難い。
- 昭和36年8月 下館工場長就任。プラスチック関係の製品と積層板を量産。
- 昭和37年8月 山崎工場長就任。内販依存から外販への進出。